令和3年度 うめ防除暦

【表示されている農薬の使用基準は令和2年12月17日現在の登録内容です】

JA佐渡うめ倶楽部

回数	散布時期 (生育状態)	主な対象病害虫	10a 散布量 (成木、手散布)	薬剤名	散布濃度	100% 当 薬量	収穫前 使用 時期	使用 回数	使用上の注意
臨時	休眠期	カイガラムシ類	100	機械油乳剤95	14倍	7 L	-	-	・カイガラムシ及びウメケムシの卵塊は枝から除去する。 ・機械油乳剤95に替えてハーベストオイル50倍でもよい。 ・樹勢が落ちるので毎年の散布は避ける。また、樹勢の弱い樹は散布しない。
1	3月上旬まで (休眠期)	カイガラムシ類 ハダニ類	200	石灰硫黄合剤	7倍	14 L	発芽前	-	・無風、温暖日に丁寧に散布する。 ・機械油乳剤95散布後は1ヶ月以上間隔をとる。
2	4月上旬 (発芽期)	かいよう病 黒星病 すす斑病	350	ペンコゼブフロアブル	1,000倍	100 g	21	3	・満開期の散布は行わない。
3	4月中旬 (満開10～ 15日後)	アブラムシ類	350	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	50 g	前日	3	・ヤニ部分は幼虫を除き捕殺する。 ・ウメケムシの幼虫群は見つけ次第に捕殺する。 ・風当たりの強い園地は防風対策を実施する。 ・灰色かび病または灰星病の多発する恐れがある場合は、ベルコート水和剤2,000倍(30日/3回)を混用する。
		かいよう病		マイコシールド	1,500倍	66 g	21	4	
4	4月下旬 (幼果期)	黒星病 すす斑病	400	スコア顆粒水和剤	3,000倍	33 g	前日	3	・ケムシが多発生する場合はサムコルフロアブル10(4,000倍) (14日/3回)を単用散布する。 ・ペンコゼブの収穫前使用時期に注意する。 ・隣接作物との薬剤散布について充分注意する。
		かいよう病 黒星病 すす斑病		ペンコゼブフロアブル	1,000倍	100 g	21	3	
5	5月上旬(果 実肥大期)	黒星病 すす斑病 うどんこ病 灰色かび病	400	ストロビードライフフロアブル	2,000倍	50 g	7	3	・カイガラムシ多発園では5月中下旬にアプロードフロアブル 1,000倍(7日/2回)を単用散布する。
6	5月下旬～ 6月上旬 (収穫前)	カイガラムシ類 アブラムシ類	400	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	50 g	前日	3	
		黒星病 すす斑病		スコア顆粒水和剤	3,000倍	33 g	前日	3	
収穫後防除									
7	7月上中旬 (収穫後)	カイガラムシ類	400	スプラサイド乳剤40	1,500倍	66 ml	14	2	・収穫後散布とする。 ・ウメシロカイガラムシ第2世代のため必ず散布する。 ・スプラサイド乳剤に替えてスプラサイド水和剤1,500倍(14日/2回)でもよい。
臨時	9月上旬 (収穫後)	アブラムシ類	400	スミチオン乳剤	1,000倍	100 ml	14	2	・ペンコゼブフロアブルに替えてデランフロアブル2,000倍(14日/2回)でもよい。
		黒星病 かいよう病		ペンコゼブフロアブル	1,000倍	100 g	21	3	

(注1)

多雨が予想される場合は、機能性展着剤（アビオンE等）を使用すると良い。

上記以外の農薬使用についてはJAまたは関係機関にご相談してください。（登録のない薬剤は絶対に使用しないこと）

農薬飛散防止に努めましょう。

防除時期は各地区の生育状況により調整してください。

(注2)

薬剤混用の順序（水和剤混用の場合） 水 → 展着剤 → 殺菌剤 → 殺虫剤

薬剤混用の順序（乳剤混用の場合） 水 → 乳剤

薬剤混用の順序（フロアブル剤、水和剤混用の場合） 水 → フロアブル剤 → 水和剤